

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 市 長	平成 24 年 7 月 30 日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 東京都港区虎ノ門二丁目2番1号	報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 日本たばこ産業株式会社 代表取締役社長 小泉 光臣

京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。	
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	関西工場環境マニュアル (ISO14001)
適 用 範 囲	・日本たばこ産業株式会社 関西工場 ・西日本プラントサービス株式会社 本店
導 入 年 月 日	2002年 9月13日
認 証 番 号	YKA 0773056/I
基 本 方 針	1. 労働安全衛生、品質、環境のマネジメントシステムを維持します。更に、定期的な内部監査やマネジメントレビューにより継続的な改善に努めます。 2. 法規制ならびにその他協定などを順守します。必要に応じ自主基準を設け、労働災害、環境の保全・汚染の予防に努めます。 3. 達成すべき目標を明確にし、計画的に安全衛生・製品品質改善・環境保全の活動を推進します。 重点課題として、以下の項目に取組みます。 (1) 安全衛生に関するリスクの低減。 (2) 製品品質の向上。 (3) 省資源、省エネルギーの推進。 (4) スキルとマインドの向上。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	平成23年度目標 1. CO2排出量の削減： 24,439 t-CO2/年 2. 廃棄物の発生量の抑制： 1,278 t/年 3. 関係法令の順守の強化： 高圧ガス（冷凍）保安教育の定着および新規届出時のチェックの強化 (順法チェックシート等活用による監査の継続)
目標を達成するための取組の内容	1. CO2排出量の削減 ・特別高圧変圧器1台、コンプレッサ1台、小型貫流ボイラ3台を高効率機に更新 ・コンプレッサ運転台数制御方法の改善、圧空配管の圧力損失を低減 ・排水処理プロワの運転方法改善 2. 廃棄物の発生量の抑制 ・原料ロス、損傷品の低減 ・廃プラスチック類有価物化への検討 3. 関係法令の遵守の強化 ・新人への教育訓練を計画 ・更新する設備の設置・廃止届出スケジュールを計画
目標を達成するための取組の進捗状況	1. CO2排出量の削減（水の使用量の低減共） ・第1変電室変圧器7台、コンプレッサ1台を更新済 ・冷却水に使用する井水の水質の向上策、冷凍機冷却塔用充填材の更新実施済 ・排水処理プロワの水冷式から空冷式に変更及び運転方法改善を実施済 2. 廃棄物の発生量の抑制 ・設備機械の改善、日常管理の強化を実施中 ・小物雑金属、PPバンド、一般廃棄物紙及び不要物品の有価物化実施済 3. 関係法令の順守の強化 ・新人への計画的な教育訓練を実施中 ・更新設備の設置・廃止届出を提出済
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	当初計画どおりに取組むことができた。 CO2排出量削減に関しては、さらに空調送風機の回転数制御、照明器具をLED照明に更新等の改善を実施した。 廃棄物発生量の抑制に関しては、有価物化を実施しているなかで、さらに金属及び紙くずのほぼ全量の有価物化及びPPバンドの有価物化を追加し、現在、有価物化が可能と思われるものは殆ど実施できた。 また、水の使用量の削減についても、フロアの空冷化その他の施策の実施により目標を達成し、全ての目標をクリアした。そして、現在においてもクリア中である。
事業活動に係る法令の遵守の状況	法令で定められた測定の実施状況及び基準値の順守状況について毎月確認を行うとともに、1年に1回以上関連法規の順守状況についてチェックシートを活用し、全般にわたって内部監査を実施。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価及び見直しの必要性を1年に1回以上検討している。 平成22年度の取組結果は概ね良好であり、平成23年度も環境目的の重点項目として『CO2排出量の削減』及び『関係法令の順守の強化』を継続し、平成22年度に目標を達成したので平成23年度においても更に目標達成に向けて努力した。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。